

ポスト・コロナ時代を 私たちはどう生きるのか

●北海道医療大学看護福祉学部教授

塚本容子さんに聞く



緊急事態宣言が解除になり、世界を恐怖に陥れたコロナ感染も目下、小康状態にあるが、その先は五里霧中といったところ。私たちの行動規制が緩和される中、

混迷をきわめるポストコロナ時代を生き抜く処方箋はあるのか――。

感染対策のスペシャリストである塚本容子教授に聞いた。
(10月20日現在、本誌・対馬優雅)

――全国的にコロナ感染が小康状態にありますが、今後どうなると思いますか。

感染者が一定程度、増えることはあると思います。政府の経済対策で行動規制がどのように緩和されるのかによって変わるでしょう。ワクチンの接種率もだいぶ上がっていますから、昨年の5月のように新規感染者が道内で700人ということにはならず、多くても100人から200人の間で推移すると思います。

あとポイントになるのはウイルスが変異するかどうかです。当然ワクチンが効かないような変異ウイルスが予想されるので、予測が変わってくる可能性は

ありますが、現状だと先程のように予測できません。

また、すでにメディアで報じられている「ブレイクスルー感染」の心配もあります。

米国のパウエル元国務長官もワクチンを2回接種していましたが、コロナに感染して亡くなりました。米国では衝撃的に扱われています。「ワクチンを打つていても感染してしまう。だけど重症化には

基礎疾患がある高齢者は要注意

――パウエル氏も、基礎疾患があったのですか。

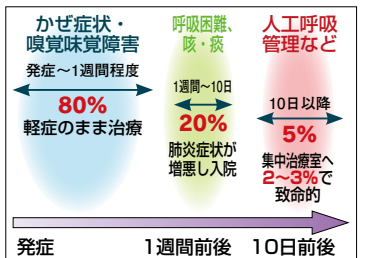
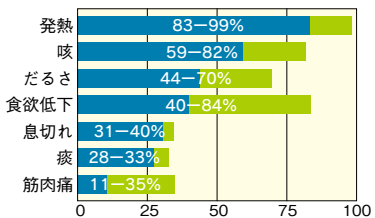
パウエル氏は84歳と高齢で腎疾患の基礎疾患がありました。高齢で基礎疾患があるとワ

ならない」ことは、日本や海外のデータから間違いのないと思います。ただ残念ながら基礎疾患がある方は、ワクチンを打っていたとしても感染してしまうと重症化してしまい、最悪亡くなることもあるのが現状です。

クチンを打ったからと言って100%安心かと言うとそうではありません。北海道でもワクチンを2回接種済みで基礎疾患がある高齢者の方が重症になった

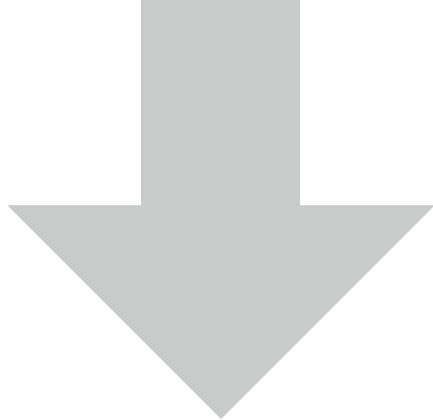
例もありますので注意が必要です。また政府や行政は「ワクチンの2回接種とPCR検査での陰性」を行

動規制の緩和の根拠に挙げられています。本音が、本当にそれでよいのか



症状	新型コロナウイルス	かぜ	インフルエンザ
発熱	軽症から重症まで幅広い 季節性は不明	平熱～高熱	突然の発症 冬に多い 通常5～7日で軽快
咳	◎	◎	◎
咽頭痛	○	◎	◎
息切れ	○	×	×
だるさ	○	○	◎
関節痛	○	×	◎
筋肉痛	○	×	◎
頭痛	○	◎	◎
鼻水	△	◎	○
下痢	△	×	○ 特に小児で多い
くしゃみ	×	◎	×

資料：国立国際医療研究センター国際感染症センター



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)